

# 事業報告書（平成30年度）

事業名 「在留外国人及び留学生による各国ESDとSDGsの市民レベルの推進状況・課題発見・対策状況ワークショップ」（略称：在留外国人SDGs市民・県民推進会議）（連携国市民：イギリス、フランス、ポーランド、ドイツ、スペイン、イタリア、ポルトガル、オランダ、オーストリア、アメリカ、カナダ、オーストラリア、トルコ、インドネシア、インド、ネパール、バングラデシュ、ベトナム、フィリピン、日本）

団体名 NPO法人岡山県国際団体協議会 担当者名：橋本徹決

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

## 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

(1) 日時：2018年 8月24日（金）映像放映と講演会

2018年11月25日（日）在留外国人市民・県民会議（SDGs説明とワークショップ）

2019年 1月27日（日）都合で中止

(2) 場所：岡山国際交流センター

(3) 参加対象者：

①映像放映と講演会：80人（内外国人5名）

・各市町村（地域振興、国際、企画関係職員）・岡山発国際貢献推進協議会（産、官、学、NGO会員）・国際経済交流協会（海外展開企業経済関係会員）・岡山NPOセンター（環境、福祉、国際、人権関係NPO会員）・NPO法人岡山県国際団体協議会（国際関係会員）・在留外国人・教育関係者、市民活動・地域活動・NGOの活動の関係者、大学関係者・学生・大学院生、行政、その他関心ある市民・県民

②在留外国人SDGs市民・県民会議：ブラジル、バングラデシュ、中国、ドイツ、インドネシア、イタリア、ヨルダン、ネパール、スウェーデン、トルコ、ベトナム、イラン、パキスタン、アルゼンチン、日本（40名参加）

(4) 内容等

①映像放映と講演会：SDGsを軸とした世界の動向や岡山が担う役割や最近のドイツで開催されたSDGsの国連会議や国連本部でのSDGsと科学技術に関する国連会合など、岡山から日本代表として参加およびスピーチをされている横井氏の国際都市岡山へ向けた戦略について。（岡山大学副理事：国際戦略担当 横井 篤文氏）

②在留外国人SDGs市民・県民会議：

a) SDGsとは何か？Lecturer：Mr. Tarek Katramiz（JSPS-UNU Postdoctoral Fellow  
UNU Institute for the Advanced Study of Sustainability）

b) ワークショップ：ESD/SDGsの概要を理解させ、一人でなく協働で力を合わせ何等かの行動を起こすためのテーマを考え、現状を分析し、ゴールとの差を埋める課題と解決策を見つけ実施に移行する。そのような例が提案できるように講師は参加者をファシリテートする。

c) 結果の発表

- ・参加者の関心のある事項又はSDGsの目標を各自参加者が記述
- ・グループで取り組みたいテーマ設定
- ・別紙報告書参照

## 2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

今回の講演とワークショップは、SDGsの目標に対して身近な生活上の言葉の中にある継続的な社会的・文化的な要素である問題点を見つけ、それらを記述して行った。つまりESDの社会・文化的視点から、より質の高い生活を次世代も含む全ての人々にもたらすことのできる開発や発展を目指して、暗黙の内の持続可能な未来や社会の構築を目指すような発言や取り纏めとなった。在住外国人として初めての討論であり、時間的制約もあり環境的視点、経済的視点までには至らなかった。これ以降については、次回で討論することとなった。

## 3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

- (1) 参加者は初めての自分なりのSDGs推進上の意見として、身の回りで気づくことの問題点を挙げていた。
- (2) 第一回であったので、相互の考え方を知るのにも十分な時間もなく、改めて時間があれば話し合いたい希望はある。
- (3) 毎日が、仕事や興味のあることをする時間で一杯であり、SDGsの各項目まで本当に話し合うとすれば身近な問題が差し迫ったことにならないと難しい。特に、水害への対応については、興味はあるように感じた。
- (4) 15カ国の方々に参加して頂いたが、生活習慣、ものの考え方、参加の意思の表明の仕方など非常に複雑であり、よほど、日頃からコミュニケーションを取らないと十分な話し合いは難しい。特に、何に興味があるかを発掘することが必要である。特に、現在、日本は、人材不足で、海外から日本への仕事上に関する説明会であれば、多くが参加するような状況である。日本での生活習慣とか風習の考え方を伝えるに併せてSDGsの啓蒙も必要かと思われる。

#### 4. 今後の課題と展望

今後の実施方法としては、第一回目の復習を行い、「ESD/SDGsに係るあなたが取組みたいテーマ：あなた自身の業務、貴方が今まで課題としていた項目」を具体的に取組む事例を提案する。そのための在留外国人を対象にしてSDGs等を普及させると方法と云えば？

- (1) 海外の方々の国ごとの習慣、風習を知る必要があり、岡山でも定例的な国ごとの集まりがあるのでその集會に顔を出すことが非常に重要。
- (2) 上記の場合、国ごとの会合は、その国の典型的なまつりごと（政）や風習に基づいているので、彼らに長期間接触している日本人を列挙して接触することが必要。
- (3) まず、最初に、上記のような各国に親しい日本人の会を構築してネットワークを拵えながら、徐々に、在住外国人（5大陸毎の代表）のネットワークを構築すれば、スムーズな情報伝達が推進されると思われる。
- (4) トルコ協会関係組織では、世界のどこかで「世界の子供の祭典」を行っているので、そろそろ岡山でも実施希望を提出し、その対策を検討する時に、相互の人材が一斉に揃うと思われる。

### 在留外国人SDGs市民・県民会議（岡山で最初のSDGsに関する在留外国人会議） “SDGs Promotion meeting for Foreign Residents of Okavama”

講演会前のファシリテータ会議（2018年11月25日）

通訳兼務（内田、後谷、下村、小笠原、飛松、加藤、タレク、橋本）

参加予定国の国旗

6グループの集結



ワークショップの説明（加藤）

Aグループ発表



**2018年11月25日（日）14:00～17:00**  
**在留外国人SDGs市民・県民推進会議**



岡山で最初の在留外国人SDGs協議（皆様お疲れ様でした！）